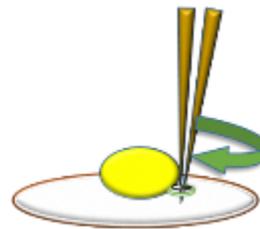


Web 版

地協ニュース

ときたまご

令和5年10月26日(木)号
山形市教育委員会 社会教育青少年課発行



学校と地域の連携・協働による「体力別遠足」(第一中学校)

第一中学校で昨年度から新たに学校と地域の連携・協働により実施している「体力別遠足」。今年度は10月4日(水)に行われました。全校生徒が自分の体力や興味・関心に応じてコースを選びます。今年度は「熊野岳コース」、「瀧山コース」、「千歳山縦走コース」、「愛宕山・盃山コース」、「馬見ヶ崎遊歩道コース」、「城下町再発見フィールドワーク」の6つのコースが設定されました。

私たちが取材した「熊野岳コース」には、なんと、70名を超える生徒が参加しました。地域学校協働活動推進員さんが先生方と東沢古道保存会の方、保護者の方をコーディネートして、全員で生徒の学びを支えます。

宝沢登山口からの道はよく整備されていました。保存会の方々が、「生徒が安全に歩くことができるように」と、事前に整備活動を行ったそうです。その際、日程や人数などについて、地域学校協働活動推進員さんが学校と保存会の調整を行いました。

出発時は小雨が降っていましたが、ドッコ沼に着くころには青空が広がっていました。早目の昼食をとり、登山再開です。ここからは中央グレンデ、パラダイスグレンデ、ザンゲ坂、熊野岳と急登が続きます。先生と保存会の方で行程を確認し、生徒には保存会の方からコースの説明と励ましの言葉がありました。

途中、蔵王地藏尊の前で記念撮影を行いました。先生方だけで引率をする場合、先生方は撮影や安全見守りを行う必要があるため、子どもと一緒に写真に写ることはできません。保護者の方と地域学校協働活動推進員さんがシャッターを押してくれたおかげで、生徒全員と先生方が一緒に写真に写ることができました。生徒にとっても、先生にとっても大切な思い出の一枚になるのではないのでしょうか。

午後2時過ぎ、目的地のお釜に全員でたどり着きました。子どもたちの嬉しそうな顔と、先生方や保存会の方、保護者の方の安心したような表情がとても印象的でした。

〈校長先生より〉

本校開校以来の伝統である「体力別遠足」を、昨年同様に、地域学校協働活動の一環として実施しました。今年は6コースを設定し山登りの4つのコースについては、東沢古道保存会がガイド役を務めてくださり、馬見ヶ崎遊歩道コースについては東沢郷土研究会の講話をお聴きし、城下町再発見フィールドワークは学校運営協議会のメンバーが中心となり企画運営を行っていただきました。

東沢古道保存会には昨年度から引き続き、しかも昨年以上にお世話になりました。また、保護者の有志からも登山に参加いただき、安全面でサポートしていただきました。

私は2コースの瀧山登山に参加しました。朝こそ小雨がちらつき心配しましたが、山頂につく頃には快晴となり、蔵王連峰や山形市内が一望できる絶景を見ることができました。生徒たちの感動に溢れる言葉を聴いたときは、嬉しさが込み上げてきました。かなりのハードワークながら、大きな怪我もなく体調を崩すこともなく踏破した一中生はたくましいと改めて感じた秋晴れの日でした。

子どもの思いや願いを何とか実現したいという思いは教職員も保護者も地域住民も同じです。伝統的に行われてきた活動が、様々な問題から実施が難しくなっている状況において、地域学校協働活動として実施することができたことに心より感謝いたします。

〈熊野岳コースに参加した3年生の声〉

- 学区にせっきく山があるのだから、後輩たちにも経験してほしい。これからも続けてほしい。
- 忙しい毎日の中で、自然にふれて心身のリフレッシュができた。
- 保存会の方が体調を心配してくれたり、励ましてくれたりと、温かく声をかけてくれた。大変なコースだったががんばることができた。
- 植物のことや山のことなど、専門的な知識を教えてもらった。

〈東沢古道保存会の方のより〉

- 世代を超えたつながりができる。
- 古道保存会で大切にしていることを子どもたちに知ってもらえる機会になる。
- 子どもたちと話す機会になる。
- 子どもと関わることが楽しいし、元気になる。若返る。
- 体力別遠足はこれからも続けてほしい。

〈地域学校協働活動推進員より〉

- 自分が中学生時代に参加した活動が続いていて、懐かしく、また、嬉しく思う。携わりたい、手伝いたいという思いがあった。
- 初めて登山を経験する子どももいる。登山中はけがをしないように、けがをさせないようにと思っていた。
- 登山開始すぐに「もうだめかもしれない」と言っていた子どもが、最後まで登ることができた。登り切ったときの笑顔が嬉しかった。
- 子どもたちは達成感を味わうことができたのではないかと。この経験を自信にして、生かしてほしい。
- 子どもたちが将来保護者として体力別遠足に参加してもらえたら嬉しい。それまでずっと続いてほしい。